

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年9月8日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2873100545		
法人名	医療法人高寿会		
事業所名	医療法人高寿会グループホーム高寿		
所在地	兵庫県川西市久代3丁目19-1 (電話)072-740-6663		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年8月1日	評価確定日	平成20年9月19日

【情報提供票より】 (20年6月30事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤 6人, 非常勤 19 人, 常勤換算	16.5 人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 1~3 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円
敷金	有(150000 円)		無
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

#### (4) 利用者の概要 (6月3日現在)

利用者人数	26 名	男性	5 名	女性	21 名
要介護1	1	要介護2	4		
要介護3	12	要介護4	6		
要介護5	3	要支援2			
年齢	平均 84.5 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宝塚第一病院
---------	--------

### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>田園風景の名残を残す落ち着いた地域の中に近代的な佇まいの施設である。「利用者の人格の尊厳と家庭的な環境の基に」を理念として、地域の環境に馴染んで頂くように自治会行事に参加している。外出時には地域の人と顔馴染になるよう努め、施設自体が地域に溶け込むことを目標としている。自然光の差し込む明るい共用空間は無駄な装飾はなくすっきりと整えられ、季節感溢れる塗り絵・書道等利用者の作品が廊下・リビングに展示してあり、落ち着いてくつろげる空間作りが出来ている。広い廊下は利用者の歩行訓練に活用されている。職員の言葉使いや接遇は礼儀正しく穏やかで心配りがうかがえ、入居者の尊厳への配慮が感じられる。</p>
---

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果を踏まえ改善に努め、評価受審によりサービスの質の向上に役立たせるよう努力している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
重点項目	自己評価については各階のリーダーに見てもらい、管理者が統括した。また、現状の見直し、改善点を意識しながら自己評価を作成した。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
重点項目	包括支援センター・民生委員・家族参加の下、今年度は1回実施している。業務の調整とご家族の都合がつかず定期的な実施には至っていないが、今後は事前の家族アンケート・会議のテーマをいただきながら定期的な開催を計画している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
重点項目	年に4回『施設だより』を発行している。特定の家族しか来所がないが、家族来所時には各リーダーが利用者の日常生活・心身の状況を詳細に報告している。各ユニットごとに苦情ボックスを設置し、要望・苦情の収集を図っている。家族会開催時の家族の意見・要望を運営委員会で検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	小学校の餅つき大会・秋祭りなど地域行事への参加、また地域の方からの盆踊りの指導・地元の公民館で認知症家族に対する地域別説明会の開催等、地元住民との交流に努めている。今後も、老人会への働きかけや、新興住宅地の方々への施設の役割を伝えていく計画がある。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格の尊厳と家庭的な環境の基にを理念として、地域の環境に馴染んで頂くように自治会行事への参加、外出時に地域の人と顔馴染になるよう努め、施設自体が地域に溶け込むことを目標にしているが、地域密着型サービスとして、地域との関係性を重視する文言の追加が望まれる。		法改正により地域密着型サービスの基本方針として地域との関係性が重視されるようになっている。地域との交流も積極的に行われていおり、現在の理念に地域交流の思いを言葉として盛り込まれることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関、事務所に掲示し、リーダーが職員に理念を意識するよう伝え、サービスの充実を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の餅つき大会・秋祭りなど地域行事への参加、また地域の方からの盆踊りの指導・地元の公民館で認知症家族に対する地域別説明会の開催等、地元住民との交流に努めている。今後も、老人会への働きかけや、新興住宅地の方々に施設の役割を伝えていく計画がある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価結果を踏まえ改善に努め、評価受審によりサービスの質の向上に役立たせるよう努力している。自己評価については各階のリーダーに見てもらい、管理者が統括した。また、現状の見直し、改善点を意識しながら自己評価を作成した。</p>		<p>評価結果を踏まえ、改善可能なところから優先順位をつけ計画的に取り組まれる事を期待する。評価結果報告書を来訪者が見やすい場所に置き開示される事が望ましい。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>包括支援センター・民生委員・家族参加の下、今年度は1回実施している。業務の調整とご家族の都合がつかず定期的には実施に至っていないが、今後は事前の家族アンケート・会議のテーマをいただきながら定期的な開催を計画している。</p>		<p>運営推進会議は、幅広い参加者、特に家族の意見・要望の収集の場として定期的な開催が望ましく、外部の人たちの意見をサービスの質の向上に活かされることを期待する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市が主催する情報交換会にはケアマネージャーが参加し他事業所の情報を得たりしているが、市自体との十分な連携には至っていない。</p>		<p>グループホームからの積極的な連携を期待する。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年に4回『施設だより』を発行している。特定の家族しか来所がないが、家族来所時には各リーダーが利用者の日常生活・心身の状況を詳細に報告している。各ユニットごとに苦情ボックスを設置し、要望・苦情の収集を図っている。</p>		<p>来所の少ない家族に対しての積極的な関わりについての検討を期待する。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時の家族の意見・要望を運営委員会で検討している。苦情に対しての受け入れは実施しているが、検討・回答までには至っていない。		家族と接する際、些細な話の中でも苦情や要望をすばやく捉え、意見・要望・苦情について職員全体が共有し、対応・改善に取り組み、検討結果を家族に報告されることが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の要望に関しては柔軟に対応し離職の減少に努めており、以前より離職は少なくなっている。移動も少なく、職員・利用者の各ユニットごとの交流が盛んに行われており、職員も顔なじみの関係作りが出来ている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望に応じて参加できるよう外部研修の案内は各フロアーに掲示している。個々の職員の質の向上を目指した定期的な内部研修の計画はしているが実施に至っていない。		常勤・非常勤・パート職員も含む職員の質向上を図るための年間計画に基づいた研修の実施を期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は連絡会があったが、最近ケアマネジャーが他施設に連絡をとり連携をとっているだけに留まっている。		各グループホームの連絡会を持ち、交流を深め、情報交換会・研修の実施を期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
	12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		<p>納得してサービス利用が出来るよう、お茶の時間を利用して利用者と馴染みの関係ができるよう趣味や雰囲気作りに努めている。</p>
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
	13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		<p>日常生活の中で利用者の経験豊かな生活の知恵を学び、お互いに理解を深められるよう取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりの生きがいを見つけていくよう努めている。</p>
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
	14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		<p>サービス利用開始時に利用者の希望や思いを受け止め、入所後も日々接していく中で一人ひとりの現状を把握し、その人らしく過せるようカンファレンスをもち、職員、家族と共に日々の生活を支援している。意思表示の困難な利用者に対しても、希望・要望の把握に努めている。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所時にケアマネジャーから情報を得、家族から入所までの暮らしぶりの情報を収集している。入所後もアセスメントを実施して介護計画を作成している。</p>		<p>介護計画は利用者の立場に立った利用者個々に必要な個別具体的な支援計画が必要であり、日常的に直接介護するスタッフ・家族の意見・要望を取り入れた支援計画の共有が望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ご利用者の状態に変化が見られた場合はカンファレンスを行い、現状把握に努め介護計画の見直しを行っている。</p>		<p>家族の要望・希望を収集し、職員が日常的に把握した利用者の状態・希望をまとめ、支援の方法を話し合い、利用者の現状に即した介護計画の見直しが望まれる。また、状態の変化が見られない利用者に対しても月1回の予防的な視点に立った見直しが求められる。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の希望に応じて馴染みの理髪店に出かけたり、町の健康室に同行するなど個々のニーズに対応できるよう努めている。週一回訪問看護師の訪問を受けている。</p>		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>週一回定期的に法人院長の往診があり、利用者の身体状況の報告をし、助言を受けている。利用者のかかりつけ医へ受診は家族が同行している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族の要望に応じて医師・看護師・ケアマネジャーと連携をとりながらを対応している。職員はカンファレンスで情報を共有し、医師の指示の基に支援している。マニュアルは作成できていないが書面を取り交わしている。</p>		<p>重度化や看取りについてのマニュアルを作成し、グループホームとしての方針や対応について職員の理解を深め、共通認識を持つための取り組みを期待する。</p>
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の言葉使いや接遇は礼儀正しく穏やかで心配りがうかがえ、入居者の尊厳への配慮が感じられる。ご家族への報告も本人にわからないように自然な感じで接している。</p>		<p>年一回は高齢者の尊厳・個人情報保護やプライバシーについて研修を行い接遇については職員同士お互いに注意を促し、一層のサービスの質向上を期待する。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>あらかじめ設定されたスケジュールはあるが、日々の過し方は、利用者のペースに合わせて日常生活が送れるように支援している。ダイルームでの生活風景は利用者本位に過されており、穏やかな雰囲気が感じられる。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者のペースで食事を楽しみ、職員は見守りながら、さりげなくサポートしている。食事介助の必要な利用者にも行き届いた支援を行っている。利用者の力量に応じて食後の片付けを手伝っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前には体温・血圧など身体状況を確認している。利用者一人ひとりのペースに合わせて入浴できるようスタッフ2名で見守り、事故予防にも配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の力量を把握し、掃除・洗濯物干し・取り入れ、たたみ等無理なく自然に取り組めるよう支援している。日常生活の中で個人の役割、楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	短時間でも外気に触れ気分転換が図れるように、歩ける利用者と車椅子の利用者と一緒に近隣の神社への散歩や買物等外出支援を行っている。春にはお花見に出かけ季節感を感じ、五感刺激への配慮をしている。又ご家族と利用者が外出・外泊される際の支援も行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面を重視して各階のユニットの入り口のみ施錠しているが、時間を決めてドアは開錠している。職員は施錠することの弊害を理解しており、常に利用者の様子を察知して外出の介助を行っている。		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得、年に2回防災訓練を実施し、職員に避難方法の説明をしている。近隣の地域住民の方の協力体制も出来ている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>定時に利用者一人ひとりについて食事摂取量をチェック表にて把握し、栄養面での偏りがないように配慮している。水分摂取は一回の飲水量・回数を確認して脱水予防を行っている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自然光の差し込む明るい共用空間は無駄な装飾はなくすっきりと整えられ、季節感溢れる塗り絵・書道等利用者の作品が廊下・リビングに展示してあり落ち着いてくつろげる空間作りが出来ている。広い廊下は利用者の歩行訓練に活用されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人・家族が望まれるように自宅で使い慣れた家具等を活用し、住み慣れた環境づくりに努め、落ち着いて過せる居室が出来ている。また、ご家族からの贈り物や思い出の品を部屋に置き家庭的な雰囲気が見られる。</p>		

 は、重点項目。